

令和3年度
埼玉学園大学大学院
子ども教育学研究科 **FD** 活動報告書

令和4年7月13日
子ども教育学研究科
F D 委 員 会

目 次

1	はじめに	1
2	FD 活動に関する基本方針	
2-1	FD 委員会の委員構成	2
2-2	FD 委員会の開催日及び議題	2
3	子ども教育学研究科教育体制	
3-1	教育方針（ポリシー）	3
3-2	3 ポリシーの検証	4
3-3	教育実施体制	5
4	大学院生による授業アンケート	
4-1	授業アンケート実施概要	12
4-2	授業アンケート実施結果	13
5	教員による授業報告	20
6	研究発表会及び意見交換会	
6-1	研究発表会	26
6-2	大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会	26
7	論文審査について	
7-1	修士論文中間報告会	27
7-2	学位論文発表会及び最終試験	28
8	おわりに	28
	参考資料	
1	埼玉学園大学大学院FD委員会規程	29
2	授業についてのアンケート（様式）	30
3	教員の授業報告（様式）	31

1 はじめに

埼玉学園大学大学院子ども教育学研究科は、平成27年度に開設された。その目的は、教育の理論と実践を往還しながら、自らの教育実践理論を構築できる資質と力量をもつ人材の養成であり、将来スクールリーダーとして活躍できる高度な専門的知識と技術を修得した人材の養成である。これは、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

設置後第7年度が終了した段階で、子ども教育学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証し、もし不十分な点があれば早急に改善を図ることにより、同研究科の教育をより充実したものにするために、令和3年度埼玉学園大学大学院子ども教育学研究科FD活動報告書を作成した。

2 FD活動に関する基本方針

子ども教育学研究科におけるFD委員会の基本方針と役割、FD委員会規程については、当初の通りで変更はない。(参考資料1)

令和3年度のFD委員会の構成員は、以下の通りである。

2-1 FD委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	FD委員長	堀田 正央
委員	子ども教育学研究科講師	石橋 優美
委員	子ども教育学研究科講師	佐内 信之
委員	子ども教育学研究科講師	堀田 諭
委員	子ども教育学研究科客員教員	久保田善彦

2-2 FD委員会の開催日及び議題

FD委員会の開催日及び議題

令和3年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和3年度】

開催日	議題
令和3年 7月14日	(1) 令和3年度研究発表会の実施について (2) 令和3年度教育研究に関する意見交換会の実施について
令和3年 11月10日	(1) 令和3年度研究発表会の報告について (2) 令和3年度意見交換会の報告について (3) 令和2年度FD活動報告書について
令和4年 2月9日	(1) 令和4年度のFD活動について (2) 令和3年度のFD活動及び自己点検評価活動報告について (3) 令和3年度取組実績及び令和4年度取組・改善計画の策定について

3 子ども教育学研究科教育体制

3-1 教育方針（ポリシー）

【子ども教育学研究科修士課程】

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

子ども教育学研究科では、学校教育において複雑化・多様化する社会背景のもとに顕在化する多様な学校教育課題に教育学的内容知識を基に課題を正確にとらえ分析し、解決方策を構築し、それを実践知力まで高め、その実践結果を評価・改善し、理論化するという研究能力と実践理論を身につけた人材の養成を目的とします。このため、学位授与のためには、次のような条件を満たす必要があります。

1. 本学の教育課程において所定の単位を修得し、以下に示す教育研究及び教育実践力を修得したと判定されること。
 - ① 教育実践の省察をもとに、主体的・継続的に学び続け、自らの教育実践理論を構築することができる力量
 - ② 教職員と協働して学校組織における教育活動を活性化させる協働力
2. 本学の教育課程において教育課題の解決に関する理論的探究と実践的研究を行い、修士論文としてまとめ口頭試問に合格すること

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

1. カリキュラムの編成

子ども教育学研究科では、教育に関する専門的知識や専門職としての資質・能力の向上を図り、保育・教育の創造に主体的に取り組むことのできる実践的力量を有する人材を育成するために「理論を学ぶ科目」「理論と実践を往還する科目」「自らの教育実践理論を構築する科目」を構造化し、有機的関連を図ったカリキュラムを編成しています。

2. 教育の実施体制

各授業科目を担う教員が子ども教育学における教育・研究の使命をもち、保育・教育における高度な知識と実践的力量について互いに共有し、協働体制のもと教育を進めます。

3. 教育の評価

各授業科目は本学の理念・目的に沿った目標を定め、到達目標並びに評価の基準・方法を学生に周知し、成績評価を行います。また、FD委員会、研究発表会を定期的で開催し、学生による授業評価の結果をもとにカリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証をします。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

子ども教育学研究科では、「自立と共生」を理念に豊かな教養と子供に対する深い愛情と保育・教育に対する強い使命感をもち、高度な専門的知識と教育実践的力量を有する人材の養成を目指します。そこで、次のような能力・意欲・適性を持った学生を求めます。

- ① 学部段階で培われた資質能力をもとに保育・教育に関する研究に意欲的に取り組もうとする者。
- ② 学校や地域において指導的役割を遂行できるスクールリーダーとなることを志向し、高度な実践力を修得しようとする者。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に選考により、最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えています。

3-2 3 ポリシーの検証

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーにおいて示された“自らの教育実践理論を構築することができる力量”および“教育活動を活性化させる協働力”は不易流行が求められる社会背景において益々重要なものとなっている。前者においては各特論を始めとした講義科目、後者では本研究科の特色であるチーム・ティーチングによる演習科目によって、2年間を通じて培うことができていると考える。直近の修了生では教員や他学生との協働によって多くの知見を得、修士論文のテーマを大幅に変更したケースが見られたが、一定の教育実践理論の構築に至ったものと判断されている。令和2年度より修士論文作成のための教育課題研究の科目を増加し、1年次春期から、より長期視野で論文作成に取り組むことが可能となったが、その成果は令和3年度の修士論文にも表れている。今後もカリキュラム・ポリシーとの整合性をとりながら、より高い教育の成果の質を担保するための評価・改善を継続していきたいと考える。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

教育分野は教養教育と専門教育の複合性が高く、職業的専門性と学問的専門性が密接していることから、各科目の目的が逆説的に見えにくくなる場合が考えられる。本研究科においては各科目がどのような目的でどのような資質・能力を養うものであるのかを明示するために、「理論を学ぶ科目」、「理論と実践を往還する科目」、「自らの教育実践理論を構築する科目」としてカリキュラムを構造化し、学生/教員が学びの成果を確認しやすい教育課程を編成している。特に理論と実践の往還の観点からは、各学校を始めとした地域連携等について、前年度に引き続き令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から十分な機会が得られなかった。各授業の中でメディア・リテラシーやICT教育の内容を盛り込むことで、現在求められている教師としての素養をより深めることができた面もあるが、コロナ禍に限らずさまざまな外的理由により連携が難しくなる可能性はあり得るのであって、さまざまな回路を維持・発展させていくことが必要であると考えられる。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

“保育・教育に関する研究に意欲的に取り組もうとする者”、“スクールリーダーとなることを志向し、高度な実践力を修得しようとする者”の2点を意識し、令和4年入試においても教師としての展望と研究計画の内容を重視した。令和4年度の入学予定者は内部受験者から2名で、外部受験者はなかった。教育現場におけるダイバーシティ・マネジメントの必要性の観点からも、多様な背景に基づいた学部以前の学びを持った学生同士は、より有益な相互作用が期待できる。入学/進学者にはスクールリーダーへの志向と研究への十分な資質・能力を持ちながら、主体的かつ積極的に取り組む姿が見られており、アドミッション・ポリシーが適切に機能したと評価している。本研究科では、令和3年度に外国人学生を入学させているが、今後入学希望者の多様化が更に進むことが予測され、アドミッション・ポリシーを遵守しながら公正な受け入れ態勢を整えることが課題である。

3-3 教育実施体制

令和3年度は、専任教員及び客員教員を併せて、18名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

3-3-1 専任教員

No.	氏名	職位	学位
1	堀田 正央	教授	修士(保健学)
2	浦野 弘	教授	教育学修士
3	長友 大幸	教授	博士(学術)
4	野瀬 清喜	教授	体育学修士
5	増南 太志	教授	博士(行動科学)
6	森本 昭宏	教授	教育学修士
7	川喜田昌代	准教授	修士(人間科学)
8	杉浦 浩美	准教授	博士(社会学)
9	吉野 剛弘	准教授	博士(教育学)
10	石橋 優美	講師	修士(教育学)
11	佐内 信之	講師	修士(教育学)
12	堀田 諭	講師	修士(教育学)

合計 12 名

3-3-2 客員教員

No.	氏名	職位	学位
1	久保田善彦	教授	博士(学校教育学)
2	葉養 正明	教授	修士(教育学)
3	森田 裕介	教授	博士(学術)
4	中本 敬子	准教授	博士(文学)
5	細川 太輔	准教授	博士(教育学)
6	神戸 佳子	講師	修士(教育学)

合計 6 名

3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、下記の通りである。

埼玉学園大学大学院 子ども教育学研究科修士課程 授業科目及び担当教員

科目区分	科目名	担当教員
子ども教育学講義科目	子ども教育学基盤科目	教育人間学特論 吉野 剛弘 子ども発達特論 石橋 優美 学習心理学特論 中本 敬子 発達障害支援特論 増南 太志 子どもと家庭支援特論 杉浦 浩美 学校マネジメント特論 葉養 正明 多文化子ども教育特論 堀田 正央 教育方法学特論 浦野 弘 教育実践研究特論 野瀬 清喜 カリキュラム開発特論 久保田善彦 教育メディア特論 森田 裕介
	教科・保育内容 関連科目	子どもの言葉特論 細川 太輔 子どもの数・図形概念特論 神戸 佳子 子どもの科学認識特論 長友 大幸 子どもの造形表現特論 森本 昭宏 子どもと道徳特論 堀田 諭
子ども教育学 演習科目	小学校授業実践演習 幼稚園教育実践演習 教材・環境開発演習 いじめ・自殺・不登校問題演習 地域連携プロジェクト演習	佐内 信之/細川 太輔 川喜田 昌代/石橋 優美 長友 大幸/森本 昭宏 増南 太志/吉野 剛弘 堀田 正央/杉浦 浩美
研究指導	教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	堀田正央/浦野弘/長友大幸/増南太志/ 吉野剛弘/石橋優美/佐内信之/堀田諭

3-3-4 カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的目標は、高度な教育理論と実践的な教育方法を培い、現代の教育におけるさまざまな問題を解決する教育実践理論の構築と、質の高いコミュニケーション能力により教育活動や課題解決に向け協働できる人材の養成である。

これらの目的を達成するために、「子ども教育学講義科目群」、「子ども教育学演習科目群」、「研究指導」の3科目群で教育課程を編成した。「子ども教育学講義科目群」は、「子ども教育学基盤科目」と「教科・保育内容関連科目」から構成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要 子ども教育学研究科 修士課程】

学位又は称号	修士（教育学）	学位又は研究科の分野	教育学関係
卒業要件及び履修方法		授業時間等	
「子ども教育学講義科目」の「子ども教育学基盤科目（11科目・22単位）」のうちから4科目8単位以上を選択必修、「教科・保育内容関連科目（5科目・10単位）」のうちから2科目4単位以上を選択必修。「子ども教育学演習科目（5科目・10単位）」のうち「小学校授業実践演習（2単位）」及び「幼稚園教育実践演習（2単位）」を必修科目とし、2科目4単位以上を修得。「研究指導（3科目・6単位）」6単位必修とし、合計で30単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
子ども教育学講義科目	教育人間学特論	1		2		○		
	子ども発達特論	1		2		○		
	学習心理学特論	1		2		○		
	発達障害支援特論	1		2		○		
	子どもと家庭支援特論	2		2		○		
	学校マネジメント特論	2		2		○		
	多文化子ども教育特論	2		2		○		
	教育方法学特論	1		2		○		
	教育実践研究特論	1		2		○		
	カリキュラム開発特論	1		2		○		
教育メディア特論	2		2		○			
関連科目・保育内容	子どもの言葉特論	1		2		○		
	子どもの数・図形概念特論	1		2		○		
	子どもの科学認識特論	1		2		○		
	子どもの造形表現特論	1		2		○		
	子どもと道徳特論	1		2		○		
子ども教育学演習科目	小学校授業実践演習	1	2				○	
	幼稚園教育実践演習	1	2				○	
	教材・環境開発演習	2		2			○	
	いじめ・自殺・不登校問題演習	2		2			○	
	地域連携プロジェクト演習	2		2			○	
研究指導	教育課題研究Ⅰ	1	2				○	
	教育課題研究Ⅱ	1	2				○	
	教育課題研究Ⅲ	2	2				○	
	教育課題研究Ⅳ	2	2				○	

3-3-5 時間割表

令和3年度 埼玉学園大学大学院 子ども教育学研究科時間割表

【春期】

時限	月			火			水			木			金		
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限 9:00 ～ 10:30							いじめ・自殺・不登校問題演習	増南大志 吉野剛弘	312	子どもの言葉特論	細川 太輔	312			
2限 10:40 ～ 12:10				学校マネジメント特論	葉美 正明	312				小学校授業実践演習	細川 太輔 佐内 信之	312	教育人間学特論	吉野 剛弘	312
3限 13:00 ～ 14:30	子どもと家庭支援特論	杉浦 浩美	312	多文化子ども教育特論	堀田 正央	312				子ども発達特論	石橋 優美	312			
4限 14:40 ～ 16:10															
5限 16:20 ～ 17:50															
6限 18:10 ～ 19:40										教材・環境開発演習	長女大幸 森本昭宏	312 図工室			

集中講義

科目名	担当者	教室	内 容
カリキュラム開発特論	久保田善彦	312	8/30, 8/31, 9/1の1～4時限目、9/2の1～3時限目
教育メディア特論	森田裕介	312	9/6, 9/8, 9/9の1～5時限目

【秋期】

時限	月			火			水			木			金		
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限 9:00 ～ 10:30				子どもと道徳特論	堀田 論	311	地域連携プロジェクト演習	堀田正央 杉浦浩美	312						
2限 10:40 ～ 12:10													学習心理学特論	中本 敬子	312
3限 13:00 ～ 14:30				教育方法学特論	浦野 弘	312				教育実践研究特論	野瀬 清喜	312	子どもの数・図形概念特論	神戸 佳子	312
4限 14:40 ～ 16:10				発達障害支援特論	増南 太志	312				幼稚園教育実践演習	川喜田昌代 石橋 優美	312			
5限 16:20 ～ 17:50										子どもの造形表現特論	森本 昭宏	図工室			
6限 18:10 ～ 19:40										子どもの科学認識特論	長女 大幸	312			

「教育課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員、副指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

3-3-6 院生数

今年度（令和3年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総 数 4名

② 入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程1年	1	1
修士課程2年	-	2

③ 年齢別人数（名）

	22歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～
修士課程1年	2	-	-	-	-
修士課程2年	2	-	-	-	-

④ 男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程1年	1	1
修士課程2年	-	2

3-3-7 研究題目一覧

<修士課程1年>

- ・外国人の子供における幼稚園・保育園と家庭との連携のデジタル化
-日本で中国人の子どもを着目して-
- ・情報教育の返還と今後の課題-情報モラルに着目して-

<修士課程2年>

- ・子どもの被受容感と保育の質を高めるための研究
- ・複式学級の現状と今後の在り方に関する研究

3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
子ども発達特論	石橋 優美	2
子どもと家庭支援特論	杉浦 浩美	2
学校マネジメント特論	葉養 正明	2
多文化子ども教育特論	堀田 正央	2
カリキュラム開発特論	久保田善彦	2
教育メディア特論	森田 裕介	2
子どもの言葉特論	細川 太輔	2
小学校授業実践演習	佐内 信之/細川 太輔	2
教材・環境開発演習	長友大幸/森本昭宏	2
教育課題研究Ⅰ	堀田 正央	1
	佐内 信之	1
教育課題研究Ⅲ	堀田 正央	1
	長友 大幸	1

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
発達障害支援特論	増南 太志	1
教育方法学特論	浦野 弘	2
教育実践研究特論	野瀬 清喜	2
子どもの科学認識特論	長友 大幸	1
子どもの造形表現特論	森本 昭宏	2
子どもと道徳特論	堀田 諭	1
幼稚園教育実践演習	川喜田昌代/石橋 優美	2
地域連携プロジェクト演習	堀田 正央/杉浦 浩美	2
教育課題研究Ⅱ	堀田 正央	1
	佐内 信之	1
教育課題研究Ⅳ	堀田 正央	1
	長友 大幸	1

3-3-9 定期試験

【春期】

科目名	担当者	試験内容
学校マネジメント特論	葉養 正明	レポート
子どもと家庭支援特論	杉浦 浩美	レポート
子どもの言葉特論	細川 太輔	レポート
小学校授業実践演習	佐内 信之/細川 太輔	レポート
多文化子ども教育特論	堀田 正央	レポート
子ども発達特論	石橋 優美	レポート

【秋期】

科目名	担当者	試験内容
子どもと道徳特論	堀田 諭	レポート
教育方法学特論	浦野 弘	レポート
発達障害支援特論	増南 太志	レポート
教育実践研究特論	野瀬 清喜	レポート

4 大学院生による授業アンケート

4-1 授業アンケート実施概要

令和3年度春期における授業を対象として7月に、秋期における授業を対象として12月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は2名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和3年7月5日（月）～ 7月16日（金）

秋学期：令和3年12月6日（月）～ 12月17日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、科目担当者がアンケート用紙（参考資料2）を配布、実施した。回答用紙の回収については、院生が回収し、事務に提出することとした。

回答学生数

春学期：アンケート回収数18／履修者数（延べ人数）18（回収率100%）

秋学期：アンケート回収数10／履修者数（延べ人数）10（回収率100%）

実施結果

結果は次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足のいく結果を得ることができた。授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4-2 授業アンケート実施結果

子ども教育学研究科 修士課程

【春期】授業アンケート実施期間：令和3年7月5日（月）～ 7月16日（金）

【春期 授業アンケート】

【子ども発達特論】（石橋 優美）

7月8日（水） 3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・子どもが好きで、将来は子ども教師になりたいです。そのために子どもの発達段階について勉強したいので履修しました。
 - ・必修科目なので。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・先行研究論文を読んでいるとき、どうやって読んで、何を学んだのかなど、色々と学びました。自分の論文を作成するのに役にたつと思います。
 - ・論文の読み方や、自分の研究について関連することを調べられたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・大満足です。とてもよかったです。
 - ・とても満足です、自分の研究の基礎がつけられました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。（複数回答）。

以上

【子どもと家庭支援特論】（杉浦 浩美）

7月12日（月）3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・家庭教育について今後、どのように支援していくかということを考えたかったため。
 - ・自分の研究内容の「家庭」と「学校」の連携について知りたかったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・家庭には様々な課題があること。今後、自分の研究をしていくにあたり、家庭の状況なども視野にいれなければならないと思いました。
 - ・日本の「家庭教育」の現状や背景を学びました。これからの自分の研究の中で、親たちの子育ての部分が役に立つと思います。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足しています。
 - ・すごく満足しています、先生の優しさに感謝します。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。
 - ・要望はありません。

以上

【春期 授業アンケート】

【学校マネジメント特論】(葉養 正明)

7月6日(火) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必修科目のため。
 - ・教員になるために、生徒たちに管理だけでなく、学校のシステムも理解する必要があるため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・小学校教育の歴史や現在、問題になっていることについて、自分の研究に近いところがあった。
 - ・法令的に学校教育の理解ができること。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足です、自分の研究と現在の小学校の問題とを相互に考えられたから。
 - ・満足しています。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。(複数回答)

以上

【多文化子ども教育特論】(堀田 正央)

7月13日(火) 3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・科目名に興味を持ったため。
 - ・春期の授業は全て履修しようと考えたため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・外国の教育や保育についての論文にふれる機会を持てた。
 - ・「日本」だけでなく海外での視点もふまえて考えられるようになり、生活や環境により前提も違うという知識が身についた。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足しています。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。・ありません。

以上

【春期 授業アンケート】

【カリキュラム開発特論】(久保田 善彦)

9月2日(木) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・ 社会の変化や科学技術の発展に伴い、学校の授業や課程の設置に適切な改善が必要である、と思い履修しました。
 - ・ 自分の研究に近い内容であった。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ 授業の中で扱った、GIGA スクールについての内容は、自分の研究と少し関連があると思います。
 - ・ 自分の興味のある情報教育について触れられたこと。
 - ・ カリキュラムマネジメントについて詳しく学べたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ 満足しました。
 - ・ とても満足しています。自分の研究についての見通しが立ちました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ 特になし。(複数回答)

以上

【教育メディア特論】(森田 裕介)

7月14日(水) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・ 自分の研究に近い内容であったから。
 - ・ 知識を広げたいから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ 小学校で情報メディアの使い方や、メディアの特性について学んだことで、研究につながりが見えたこと。
 - ・ これから、学校や幼稚園では、メディアを活用しなければならなくなり、家庭との連絡の際にもデジタル化も必要である。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ 満足しました。
 - ・ とても満足しています。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ 特になし。(複数回答)

以上

【春期 授業アンケート】

【子どもの言葉特論】(細川 太輔)

7月15日(木) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・子どもの発達に興味がある、特に言葉の発達について知りたかったから。
 - ・子どもの言葉の学習について学びたかったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・子ども自身の意見も研究に対して不可視である。
 - ・子どもの言葉の発達には段階があることを学べたので、発達を考えて、研究をすることが必要だと思った。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足した。
 - ・とても満足している。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【小学校授業実践演習】(細川太輔、佐内信之)

7月30日(木) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必修科目のため。(複数回答)
 - ・日本の小学校の授業を知りたかったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・小学校で行う授業方法や、子どもの発達について学べたこと。
 - ・現状などを知れたことは、今後の役に立ちます。
 - ・教育現場での実際の問題は、自分の今後の研究に役立つかもしれません。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足しています。
 - ・満足です。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。(複数回答) について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【春期 授業アンケート】

【教材・環境開発演習】(長友 大幸・森本 昭宏)
7月15日(木) 6時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・子どもに楽しい環境や、学ぶ教材に興味があります。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・海外の色々な子どもをめぐる作品を見ました。また、美術館、グリーンセンターも見に行きました。そして、自分も子どもと一緒に科学実験をやりました。この授業を通して、子どもへの理解が深くなっているように感じます。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足しています。
 - ・すごく満足しました。先生たちが優しく、授業は課外授業、実技授業を含め、素晴らしい体験ができて、とても楽しかったです。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。 ・ありません。

以上

【秋期】 授業アンケート実施期間：令和3年12月6日(月)～12月17日(金)

【秋期 授業アンケート】

【教育方法学特論】(浦野 弘)
12月22日(水) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・教育方法学について興味があったため。ことと、必修科目であるため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・教育の方法について、基礎・基本を学べたことが研究に役に立ちました。
 - ・自分の考えの幅が広がり、今後の研究に役に立ちます。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足しています。・満足です。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。

以上

【秋期 授業アンケート】

【教育実践研究特論】(野瀬 清喜)

12月16日(木) 3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必修科目のため、履修しました。(複数回答)
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・教育の歴史や、日本だけでなく、世界に向けた教育の考え方や方法を学べた。
 - ・日本の教育歴史ではなく、世界の教育歴史も学びができました。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足しています。特に、近年の教育のニュースを取り上げていただいたため、客観的に見る目が養われました。
 - ・家庭の育児の観点が変遷しつつ、学校教育のシステムも変わらなければいけない。事例や新聞記事などを通して、勉強になりました。満足です。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【子どもの造形表現特論】(森本 昭宏)

12月16日(木) 5時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・森本先生の春期の講義も履修しました。校内授業と課外授業を組み合わせ、すごく面白かったです。・必修科目のため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・校内授業で、国内と海外の子ども作品をいろいろ見ました。その上で、課外授業にグリーンセンターやハーバリウム活動などに参加しました。親子関係についての認識が深まりました。
 - ・研究方法やICTを活用した作品をつくれたことは、役に立ちました。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・すごく満足しました。授業でデジタル物語をつくったり、ボランティアに参加したりして、すごく楽しかったです。
 - ・とても満足しています。障がい者施設への訪問には行けなかったが、森林公園では子どもたちと関わり、子どもとの関わり方や保護者との関わり方など、様々なことが学べました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。

以上

【秋期 授業アンケート】

【幼稚園教育実践演習】(川喜田昌代、石橋 優美)

12月10日(木) 5時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必修科目であったためと幼児教育について学習したかったから。
 - ・必修科目であること。子どもの様子を学びたかったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・研究方法や見学に行ったことで、考え方が変わり、自身の研究の見方が変わった。
 - ・研究の調査方法を学んで、自らの研究もアンケート法、面談法を使っている。見学を通して、すごく勉強になりました。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足した。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。(複数回答)

以上

【地域連携プロジェクト演習】(堀田 正央、杉浦 浩美)

12月15日(水) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必修科目のため
 - ・学校、家庭教育と地域連携について興味があるため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・家庭教育において、特に親たちとのやりとりも学校教育の一環として重要であります。自分の国と家庭の連携研究に役に立ちます。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・とても満足している(複数回答)。
 - ・埼玉県の地域連携の取組を調べられたことによって、自身が教員になった時に役に立つと思います。プレゼンテーションの仕方の工夫なども学べたことが良かった。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。(複数回答)

以上

5 教員による授業報告

本研究科では、大学院教育の改善・充実を図るべく、教育力向上に役立てることを目標に、個別の授業担当教員はもとより、大学院で授業を担当する教員全体で、改善点等をそれぞれが認識し、以後改善を図ることができるよう、授業担当教員による授業報告の提出を全担当教員に求めている。

令和3年度 埼玉学園大学院 子ども教育学研究科 教員による授業報告

担当教員：堀田 正央
科目名：多文化子ども教育特論
<p>同学年2名履修であり、本年度初めて研究科に受け入れた留学生の参加があった。例年通り少人数を活かした活発なディスカッションを心掛け、一定の成果があったものと考えている。毎週持ち寄られた先行研究や事例については、特に国外から日本のシステムを批判的に見たり、外国(中国)の現在進行形で変化している教育・保育の方法や内容について取り上げることができたのは、例年には無かった成果と言える。</p> <p>2名それぞれが幼児教育/初等教育で分かれて修士論文テーマを取り上げているが、多文化やグローバルシティズンシップの観点から共通項が得られ、お互いの知見を交換し修士論文等へ活かす見込みができた。</p>
科目名：地域連携プロジェクト演習
<p>チーム・ティーティングによる演習科目として、複数の専門分野の観点により、学生の主体的な活動とともに多くの知見を得た。学生2名についても1名が幼児教育分野、1名が初等教育分野を専門としており、それぞれの分野を中心にしながらも地域と幼保小の連携の視点を深め、学校と地域との1対1の枠組みに捕らわれない地域の持続可能性や児童の社会参画等についての学びを得ることができた。</p>
科目名：教育課題研究Ⅰ・Ⅱ
<p>1名の履修者のため早期から研究計画の立案等に取り組み、修士論文のフレームワークについて妥当性・信頼性を高めることができた。主査・副査とのチーム・ティーティングにより、より良い成果を導き得た。</p>
科目名：教育課題研究Ⅲ・Ⅳ
<p>1名の履修者であったが、個別の時間をかけた指導により、複数の調査方法を用いた有意義な修士論文を完成させた。最終試験等でも高い評価を得るとともに、その成果を令和4年度5月に学会にて口頭発表を行い、幼児教育分野に資することができた。</p>

担当教員：長友 大幸
科目名：子どもの科学認識特論
ものづくりや教育現場における事例を示しながら、子どもの科学的概念が形成される過程を学べるようにした。そして、興味がある単元の指導案を作成して模擬授業を通して理解を深め、教育現場での実践に役立てられるようにした。
担当教員：教育課題研究Ⅲ・Ⅳ
週1回の対面での指導に加え、必要に応じて teams を用いたオンラインでのやり取りを行った。修士論文作成に向けた最終的な追い込み期において、オンラインの活用は有効であった。

担当教員：増南 太志
科目名：発達障害支援特論
発達障害に関する理論的な理解を深めるため、子どもの特性を把握するための検査の概要について指導するとともに、検査結果と実際の子どもの対応関係について考察した。検査を体験的に理解できるように、視聴覚教材や実際の検査の体験をとおして指導した。

担当教員：森本 昭宏
科目名：子どもの造形表現特論
<p>幼稚園・小学校の連続性を重視した造形のカリキュラムと対話型鑑賞教育・ICT など視聴覚教材の活用・学校と地域社会との連携について、多面的に考察した内容を授業に取り入れた。学校・家庭・地域社会など、様々な芸術教育のあり方について深く学ぶとともに、造形の教育者として幅広い見識と応用力を身に付けることをねらいとした。</p> <p>レジョエミアの幼児教育では、素材との対話についてディスカッションを重ね、日本の幼児教育との違いについても意見を交わした。様々な芸術教育のあり方について深く学ぶとともに、造形の教育者として幅広い見識と応用力を身に付けることを目的として授業を組み立てた。特に造形活動と地域社会との連携について、多面的に考察した内容を授業の中で講義・紹介していった。その延長として、森林公園での親子を対象としたワークショップでは、学生主体で題材研究を行う。素材研究・見本の制作から準備・運営など環境（持ち物の手配、現場での動線など）を整え、ワークショップではファシリテーター（促進者）補助の役割を理解した。ICTを活用したデジタル絵本では、オリジナルストーリーの構成・撮影・編集などを学び、教材研究を行った。</p>

担当教員：川喜田昌代

科目名：幼稚園教育実践演習

幼稚園教諭専修免許取得のための必須科目として、幼稚園教育方法の在り方に着目し、教育指導の方法論について、いろいろな方法論を示し、検討議論を重ねた。

方法論の中の自由保育の形態では、その方法の中でそのような子どもの育ちがみられるのか、そのためには、保育者（幼稚園教諭）として獲得しておかないこととは何か等、多くの先行文献を紹介し、理解につなげていった。

子どもの主体性を重んじ尊重する保育の在り方（自由保育）を、実際に現場に行つての見学・観察し、また、園長先生から実践について、理念も含め説明を聞くことにより、理解を深めることを行った。

学生も実際に幼稚園教育の現場を観ることにより、文献だけでは得られない知見が得られた点が大きかったようである。

担当教員：杉浦 浩美

科目名：子どもと家庭支援特論

初回授業ではまず、受講生の修士論文のテーマを確認した。そのうえで、なるべく修士論文に関係する文献を取り上げたいと考え、今年度は、本田由紀(著)『「家庭教育」の隘路—子育てに強迫される母親たち』(2008, 勁草書房)を基本文献とすることにした。毎回、輪読し、さらに関係する資料やデータ等を調べて報告してもらうことで、文献が刊行されて以降の状況もカバーすることができた。

本文献は章立てが、問題関心、先行研究、問いと仮説、質的データ分析、量的データ分析、問いに対する考察、という形で構成されており、修士論文の構成・形式を学ぶという意味でも適している。輪読の際は、内容の解釈だけでなく、先行研究レビューやデータ分析の方法、考察の示し方、結論の導き方等、論文作成の方法についてもその都度、解説するようにした。修士の1年次においてはこうした、論文のスタイルや文体をマスターすることも重要であると考えている。2名の受講生とも大変熱心で、実りある学びができたと考えている。

担当教員：石橋 優美
科目名：子ども発達特論
<p>本授業では、心理学の論文をいくつか読み、発達のプロセスや発達の要因について考察した。授業において工夫した点は以下のとおりである。</p> <p>発達心理学研究、教育心理学研究のなかから、履修生自身が、興味・関心や研究テーマに即した論文を選び、履修生の研究にも役立つようにした。</p> <p>論文講読を通じて、発達理論のみならず、科学論文の読み方、研究方法について解説し、科学的に理解する力が身につくよう心がけた。</p> <p>次年度以降も、履修生の興味・関心が履修生間で異なる場合に、幅広い視野、多様な視点が獲得できるよう、講読する論文の選択は履修生自身に任せたいと考えている。</p>
科目名：幼稚園教育実践演習
<p>本授業は、研究者教員と幼稚園教育に精通した実務家教員が共同で授業を進めるものであった。履修者が理論的観点から保育・教育の問題を考察し、また、教育成果を高める保育・教育の要件とその評価法について理解するよう、研究者教員の立場で授業を行った。</p> <p>保育や教育の現場でみえてきた問題を客観的に分析し、考察するためには、その方法を十分に理解する必要がある。本授業では、心理学の研究法にはどのようなものがあるのか、各研究法の特徴について、発達心理学研究や教育心理学研究等の論文を使いながら具体的に解説することを心がけた。</p>
担当教員：佐内 信之
科目名：教育課題研究Ⅰ・Ⅱ
<p>院生の授業実践に関する問題意識に基づき、基礎文献の講読を行った。特に、「情報モラル」に関する先行文献を可能な限り収集した。ただし、履修者が1名のため、院生同士の議論ができない。そのため、教員も同一の先行文献を読んだ上で発表資料を作成し、意見交換を行った。</p>

担当教員：堀田 諭
科目名：子どもと道徳特論
<p>本授業は、近年の道徳教育の動向を踏まえて、学校教育における道徳の位置と機能の変容、現行の道徳授業の意義と限界、克服方法について考察・検討した。上記の内容を題材としながら、道徳授業の分析方法、文献報告や発表の方法、傾聴や対話の方法について体験的に積み重ねた。また、小学校教師を招聘して道徳教育に関する実践についての講演・座談会を実施して現在の道徳授業の限界点を克服する方法の知見を共有し、これからの道徳授業を開発する上での条件について探究した。</p>
担当教員：久保田 善彦
科目名：子ども発達特論
<p>学生の関心を事前に調査し、対応するテーマとした。本年度の学生は、情報教育に関心があると聞き、GIGAスクールに関連するカリキュラムマネジメントを取り上げた。学校経営に関わる話だけでなく、授業経営、生徒指導など、若手教員が身近に感じる内容も含めた授業構成とした。</p> <p>少人数を活かし、議論の時間を十分に確保した。熱心な学生であったため、議論が深まった。</p>
担当教員：葉養 正明
科目名：学校マネジメント特論
<p>本授業では、道徳教育の理念に即しながら、なぜ昨今「道徳」が注目され、特別の教科設置まで至ったのか、その経緯と実際について検討していくことで、教育政策として設置された意義と可能性、そしてその限界点を見据えていくことを主眼として授業を実施した。</p> <p>授業の中では、自らの言葉や記述を大事にし、また他者の言葉も丁寧に聴くことで、常に公正・公平な対話空間を構築することを心がけた。その中で、上述した近年の道徳教育の限界点を超えるために、実践の検討及び文献の読解を課題とした。</p> <p>学生にとっては、レジュメの作り方や発表方法などの技法の習得のみならず、これまで受けてきた教育の目的・内容・方法を相対化したり、道徳教育について自ら課題を設定して他者にわかりやすく伝えて討議することで新たな気づきを得る重要性を認識できたりと、自他の教育の位置を確認し、よりよい教育に向けた示唆や方向性を考える作法を身に付ける事ができたのではないかと考える。また、学部や大学院の授業、修士論文との関連やその意義、「なぜ」と考え、根拠や証拠を示して他者と議論することの重要性を体感できたものと考え。</p>

担当教員：森田 裕介
科目名：教育メディア特論
工夫した点： ARCS 理論に基づき、受講者の注意をひく（Attention）、受講者が自分ごとと感じる（relevance）、受講生が自信をもつ（Confidence）、受講生が満足する（Satisfaction）ように授業をデザインした。 学生の専攻、興味・関心、趣味、これまでの学習歴、部活動やサークル活動、文化的背景を確認してから授業を実施した。特に今回は留学生への配慮から、日本の文脈では当たり前すぎて説明しない点についても詳しく説明した。 修士論文研究に関連づけられるように、補足説明を加えた。また、修士論文に資する授業となるよう、できる限り先行研究や文献などについても紹介するよう心掛けた。 教員が教えるというよりも、受講者が自ら学ぶよう問いかけを行った。特に、一人で考えさせた後にペアでシェアをさせる（Think-Pair-Share）を適切に導入し、インプットとアウトプットを繰り返すような授業展開を心掛けた。

担当教員：細川 太輔
科目名：子どもの言葉特論
言語獲得について、共通の教科書をもとに、読んできて要約する活動を繰り返した。そのことにより、見通しをもって受講生が取り組めるようにした。 留学生がいたので、日本語、英語、中国語、様々な言語の言語獲得を対象に、議論するようにした。 受講生がイメージをもてるよう、具体例を出して（出させて）議論させるようにした。
科目名：小学校授業実践演習
できるだけ受講生が意欲的に参加できるよう、ディスカッションを中心に授業を行ってきた。ビデオを見せるなど、具体的なイメージを持てるようにした。 留学生にも伝わるよう、背景的なところから丁寧に説明するようにした。

6 研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施した。

6-1 研究発表会

日 時：令和3年9月15日(水) 11:00～12:00

場 所：埼玉学園大学3号館 3階 304教室

参加者数：15名(専任教員11名、大学院生2名、学部学生2名)

内 容： 発表者：石橋 優美 子ども教育学研究科 講師

テーマ：「地理学的事象に関する小学生の思考の発達

-いちごの生産量はなぜ栃木県が日本一なのか-

6-2 大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日 時：令和3年10月27日(水) 13:00～14:10

場 所：埼玉学園大学3号館 3階 311教室

参加者数：13名(教員9名、大学院生4名)

内 容：

主な意見

- ・ 院生室にパソコンが設置され、勉強する環境が充実し、不自由していることはなくなった。
- ・ 少人数での受講をいかし、院生同士の学び合いを意識して講義を進めていた。
- ・ 留学生の入学により、他の院生の学びにもよい刺激となっている。

7 論文審査について

本大学院子ども教育学研究科では、修士論文作成過程において、2年次に2回の中間報告会を実施することとしている。各個別報告の詳細は次の通りである。

7-1 修士論文中間報告会

第1回修士論文中間報告会

日 時：令和3年5月27日（木）12：10～13：00

場 所：埼玉学園大学3号館 503教室

【第1回修士論文中間報告会】

時間	内容（1人当りの発表10分・質疑10分）	
	発表者	指導教員名
12：10～12：15	研究科長挨拶	
12：15～12：35	20MC0001 齋藤 めい	堀田 正央
12：35～12：55	20MC0002 佐藤 りほ	長友 大幸
12：55～13：00	講 評	

第2回修士論文中間報告会

日 時：令和3年11月18日（木）12：10～13：00

場 所：埼玉学園大学3号館 304教室

【第2回修士論文中間報告会】

時間	内容（1人当りの発表10分・質疑10分）	
	発表者	指導教員名
12：10～12：15	研究科長挨拶	
12：15～12：35	20MC0001 齋藤 めい	堀田 正央
12：35～12：55	20MC0002 佐藤 りほ	長友 大幸
12：55～13：00	講 評	

7-2 学位論文発表会及び最終試験

実施日：令和4年2月10日（木）

学位論文発表会

時間：13：00～13：40

場所：埼玉学園大学3号館 304教室

【学位論文発表会】（1人当たり発表20分）

時間	発表者	指導教員名	修士論文題目
13：00～13：20	20MC0001 齋藤 めい	堀田正央	同僚性が保育の質に与える影響
13：20～13：40	20MC0002 佐藤 りほ	長友 大幸	複式学級の現状と今後の在り方

最終試験（口述）

時間：14：00～14：40

場所：埼玉学園大学3号館 312教室

【最終試験】（口述）

時間	氏名
14：00～14：20	20MC0001 齋藤 めい
14：20～14：40	20MC0002 佐藤 りほ

8 おわりに(今後に向けて)

令和3年度は、令和2年度のFD活動の報告をもとに、さらなる検討を加えた。先に掲げた各授業の担当教員による「教員の授業報告」及び「大学院専任教員と大学院生による意見交換会」「大学院専任教員による意見交換会」により、院生と各科目担当教員、担当教員同士の話し合いをもとにした授業の振り返りによれば、「教育の理論と実践を往還しながら、自らの教育実践理論を構築できる資質と力量」の育成を目指した大学院教育が実施できたと評価できる。また、一期生は、卒業後、修士論文を発展させ、学会においても発表を行っていることも、本研究科における学びの成果である。

今後も、客員教員を含め大学院担当教員は、将来スクールリーダーとして活躍できる高度な専門的知識と技術を修得した人材養成を目指す大学院教育の在り方を研究し、実践していく所存である。

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

(目的及び設置)

第 1 条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関すること
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関すること
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関すること
- (4) 学長の諮問した事項に関すること
- (5) その他大学院のFDの推進に関すること

(組 織)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

(任 期)

第 4 条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第 6 条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事 務)

第 8 条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず平成 23 年 3 月 31 日までとする。

授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）

科目名（ ）

教員名（ ）

月 日 曜日 時限実施

※上記、記載漏れがないようお願いします

大学院の授業の質的向上のために、アンケート調査を行います。下記質問について、自由に記述してください。なお、このアンケートが成績評価に影響することは一切ありません。

1. この授業を履修した理由は何ですか？
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか？
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
4. この授業について、要望があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。

参考資料3

教員の授業報告

子ども教育学研究科
職 名
氏 名

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、 改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)